

【平成 28 年度 優秀論文の表彰が行われました！】

～3 月 25 日の卒業式後に平成 28 年度経済学部卒業記念パーティ（経和会・埼玉大学経済学会後援）が開催され、会場で優秀論文ならびに最優秀論文の表彰が行われ、賞状と副賞が授与されました。～

—最優秀論文—

■ 五月女晴奈「地域コミュニティの基盤としての商店街の役割」

本論文は、川口市の並木商店街のフィールドワークを通じて、商店街がコミュニティ形成に果たす役割を考察したものです。商店街の役割や、幅広い人が参加するイベントの意義と限界を文献研究や調査から明らかにしました。先行研究のサーベイに加えて、広範な関係者へのヒアリングやアンケート調査を実施したフィールドワークの姿勢が高く評価されました。また、今日の地域社会が抱える社会的課題に示唆する点が多いことも高く評価されました。

—優秀論文—

■ 大塚愛真「『商工省準則』と『企画院準則』の比較」

本論文はわが国最初の会計基準と戦時下の会計基準を比較したものです。単なる条文の比較にとどまらず、財務諸表の事例など膨大な文献の分析にもとづいて、時代背景、設定目的、期待された役割を論理的に考察した点が評価されました。

■ 村野翼「ヘイトスピーチ規制に対する考察」

本論文は、ヘイトスピーチの規制のあり方について憲法学の観点から考察したものです。言論の自由を優先する対抗言論による是正という見解に対して、対称性が成立しえないヘイトスピーチにおいては国家規制が必要であることを論じた論文です。ヘイトスピーチ対策法や最近の判例、統計資料を利用することで、説得力のある議論になっている点が評価されました。

■ 柳谷一輝「タイにおける自動車産業の持続的発展のための分業戦略」

本論文は、タイの自動車産業が中所得の罅を乗り越えて、持続的に発展する可能性を探ったものです。そのためには近隣諸国との分業体制の再構築が必要であることを明らかにしています。英文文献も含めた先行研究のサーベイや、工程レベルと地域レベルの戦略を視野に入れながら、巨視的な戦略を一貫性をもって論じていることが評価されました。



(左から、星野幸彦経和会会長、柳谷一輝さん、五月女晴奈さん、大塚愛真さん、柳澤哲哉学部長)